

## 週日の説教

金 大烈 神父 2008年12月4日(木)

《信じましょう、自分に一番相応しい道である、と》

今日の福音(マタイ7・21,24 - 27)を読みますと、実践すること、行うことを言っていますね。頭がよくていろいろな知識があり、心の中が温かい福音的なもので満たされていても、それが実行されなければ、手を伸ばすことができなければ、意味がないことになります。それならば知らないほうがよいのではないかとされるくらい、イエス様は実践することについて、いつも強調されていました。

それとともに考えなければならないことがあります。風が吹いたり川があふれたりすると倒れてしまうのにもかかわらず、砂の上に家を建てようとする人はいません。しかしイエス様がこのようにはっきりと、「砂の上に家を建てたのと同じである」とおっしゃった理由は、砂の上に家を建てようとする人はいないけれど、結果をみると砂の上に家を建ててしまったことになる人のことをあらかじめ警告されているのではないかと思います。砂の上に家を建てるのか、岩の上に家を建てるのか、ということは、私たちが頼り、委ねる対象がどちらであるかを意味すると思います。私たちが頼るべき、委ねるべき対象はイエス様です。イエス様は、今日の福音をとおして、私たちが頼ろうとする対象、委ねようとする対象はキリストなのか、それとも自分が知らない無意識の中の欲なのか、それをいつも見分けようとする心が必要であるとおっしゃっていると思います。

私の経験を申し上げますと、神学生の時、自分の基準では模範的ではないと思えた司祭を見て(今考えて見ますと高慢な者だった自分が見えます)、「私ならば望ましい司祭の生き方を人々に見せたい。その為にも司祭になろう。」という心がありました。

しかし、司祭になってから、いろいろな辛い経験を経ることが出来て、反省をすることになりました。もし順調に、妨げなしに、考えたとおりの司祭になってしまったとしたら、自分でも気づかないうちに、イエス様の名を使って自分の王国を建てていたのではないかと反省です。自信もあったし、どんな事でも簡単に行える力が自分にあったからです。しかし、いろいろな難しさにぶつかり、自分の弱さを認めなければならない状態に陥って、「もしかすると私は、イエス・キリストの名を使って自分の王国を建てようとしたかも知れない。しかしイエス様の慈しみによって、そのような誘惑から守っていただいたのではないかと考え、感謝の心にまで至りました。

そのようなことを考えてみると、皆様にも納得のできないこと、なぜ神様は私をこのような状況に陥らせたのか理解できないことがあると思います。そのときには、必ず神様のみ旨があることを信じ、『私は条件なしにあなたの愛に委ねます』という意識的な心になることが必要だと思います。もし委ねたのに間違えたとすれば、「あなたのせいです」とはっきり弁明くらいは出来るのではないのでしょうか。救い主であるイエス様を、救い主であると信じ、委ねることができなければ私たちの信仰は成り立ちません。

イエス様が皆様に与えてくださる道は、皆様に一番相応しい、一番きれいな、一番うまく行くことのできる道であることを信じながら進みましょう。そのような気持ちになれば、喜びと感謝の心でいっぱいになるはずです。

イエス様に感謝しながら、先のことが全く予想出来なくても、「私は信じます、外れないように導いてください。もし外れてもまた呼びかけてくださると信じます。」という信頼を持つことが必要ではないでしょうか。

ありがとうございました。